

世界唯一の戦争による被爆国の国民として



世界唯一の戦争による被爆国の国民として、私たちはどれくらい核兵器のことを知っているでしょうか。

今年も原爆の日を迎え、世界各国の人たちが広島に来て、広島市長によって平和宣言がされた。

平和宣言の全部を見たり、全文を読んだ人は多くないと思うが、、、

1人の日本人、1人のジャーナリストとして色々と疑問が残る平和宣言だった。平和宣言ではロシアによるウクライナ侵攻は国名をはっきり出したが、イスラエルによるガザでの虐殺については、「混迷を極める中東情勢」と名指しをしなかった。

昨年、多くの反対の声があがっても市はイスラエル大使を招待し、今年「案内」形式に切り替えても同大使は出席している。

虐殺を続けているイスラエルの大使を招待するかどうかについては、僕はどんな国の人でも広島に落とされた原爆を悼み、2度と同じ過ちが起きないように平和を願ってくれる人であれば参列していただいて良いと思っている。

が、しかし、現在進行形で起きている戦争に対して、ロシアは国名を出す、イスラエルは気を使って国名を出さないのは賛成しかねる。被爆国の被爆地の市長として平和を願うのであれば国家間の関係性で発言を変えるのではなく、すべての戦争に対してNOというべきだと思う。

戦後80年を迎えアメリカ大統領が広島・長崎に落とされた原爆は戦争終結のために必要だったと語り、新たな日本の政治家は「核兵器は安上がり」だと、核武装論を展開する時代になってきた。たった80年で核兵器の恐ろしさを人々が忘れ始めている。

核兵器を抑止力のために保持する！という意見もあるが、世界の核情勢や核兵器を持つコストなどもしっかり知ってから論じてもらいたいと思う。

まず、社会の授業で習ったであろう「核拡散防止条約」について。1963年に制定されたこの条約は核保有国をアメリカ、イギリス、フランス、中国、ロシア5カ国に定め、保有国は核兵器の削減に加え、非保有国に対する保有国の軍事的優位の維持の思惑も含めて核保有国の増加を抑止することを目的としている。

現実はどうだろう！？

ウクライナ侵攻時、ロシアは戦術核の使用をちらつかせていて、条約は遵守されていない。そして、インド、パキスタン、イスラエル、南スーダン、北朝鮮は条約に批准していない。

核兵器保有を認められた国は「正義の国」ではなく第二次世界大戦の戦勝国である。核保有国が世界平和に寄与し、戦争に関与していなければ良いのだが、核兵器を保有している「力」を誇示して様々な戦争、紛争に関与している。インドやパキスタンが不平等条約だとして批准せず、国防のために核兵器を保有することになってしまうのも頷ける。

もう一つ大切なのが「核兵器禁止条約」について。核兵器禁止条約は核兵器の開発、保有、使用、威嚇などを全面的に禁止した法的拘束力がある初めての条約。2017年7月に国連総会で賛成多数にて採択され2021年1月22日に発効されている。この条約には94カ国と地域が署名し、73カ国と地域が批准している。

ところが、核保有国のアメリカ、イギリス、フランス、中国、ロシアは参加していない。そして、世界唯一の被爆国の日本も参加していない。

世界が核兵器廃絶に向けて制定した素晴らしい条約なのだが、核保有国が参加していなければ意味がないと言える。唯一の被爆国日本が参加しないことが、世界にどれほどのショックを与えたことか。

毎年8月になると2度と戦争が起きないように歴史を振り返るテレビ特番が組まれ、広島、長崎の原爆の日は中継される。核兵器禁止条約に参加も批准もしない日本の被爆地の市長の平和宣言は、まさに言葉だけと思えてしまう。世界の多くのメディアもそのように報じている。

原爆投下は戦争終結を早めるために致し方なく行われた行為ではない

そしてもう一つ、我々日本人は広島、長崎と二つの原爆を落とされた理由と事実を正しく認識すべきだと思う。

マンハッタン計画という世界初の原子爆弾開発計画を知っている人は多いと思うが、戦後の公式声明文は何故かあまり日本で報道されていない。マンハッタン計画の公式声明文で「我々は2度の原爆実験に成功した」と発表している。広島・長崎への原爆投下は実戦で原爆を使う「実験」だったと認めている。

日本人の多くが、徹底抗戦を続ける日本との戦争の早期終結の為に原爆が使用されたと認識されている。広島に原爆を投下してもまだ戦争を辞めない日本に対して2発目を長崎に投下としたという歴史認識は誤りである。当時の米大統領トルーマンは広島、長崎への原爆投下を一度に命令している。GHQで有名になったマッカーサーは「たとえ原爆を投下しても日本は降伏しないだろう」という報告を送っている。

アメリカは広島、長崎に原爆を投下することで30万人以上の命を奪ったが、戦争が終結したことによって100万人の米兵（若者の命）が救われた。と言っているが、これも歴史的事実に反する。

沖縄の地上戦によって米兵に12500人も犠牲者が出た後、当時の陸軍長官バーンズが大統領に本土決戦の説明をする時、予想される米兵の犠牲者は3万人だったが、沖縄地上戦への批判が大きかったことで、正確な数字を報告できず「メニーソルジャーズ」と報告したことが明らかになっている。そして、本土決戦で予想される米兵死者数は3万人だったと公式記録に残されている。それが、原爆投下を正当化するために、いつの間にか「100万人の米兵（若者の命）が救われた」という辻褃合わせの発言になっている。

多くの日本人が原爆投下によって日本は降伏したと認識しているが、これも歴史的事実に反する。原爆投下後の陸軍の作戦会議ではまだ徹底抗戦が叫ばれていた。日本が降伏する最終的なきっかけは8月9日ソ連が日本に宣戦布告したことによる。

戦後80年、日本はアメリカに気を使う部分があるからなのか、原爆と終戦の理由を正しく伝えていない。アメリカを批判するのが目的ではなく、人類史上初めて使用された原爆、その使用目的は正しく伝えるべきだし、日本国民として正しく認識する必要があると思う。報道が歪曲されて続けられた対戦であるが故に。

日本がアジアの国々に戦火を広げる邪悪な国だから、戦争を終結させるために原爆は落とされた。我々日本人は犠牲者だが、当時の日本軍が間違っただけで行動をしていたから仕方ないと思っている。思わされている。

戦後80年、世界が再び戦争し始めた現在、そろそろ歴史的事実を見つめ、正しく認識することが大切な時期だと思う。日本が、日本の軍部が邪悪だったから原爆を投下した。それは次に邪悪な国が現れたら数十万人の命を奪っても核兵器を使用して良いという理論になってしまう。

1945年の段階で原爆という新兵器は記述にないが、どんな兵器であろうと原爆使用は国際法違反にあたる。それは1945年当時でも存在したハーグ陸戦条約の「無差別攻撃の禁止」「不必要な苦痛を与える兵器の禁止」に抵触するからだ。

戦後80年が過ぎ、多くの公式記録が公開されたことによって、日本が降伏するか否か関係なく原爆実験をすることが必要だったことが明らかになってきた。

原爆を投下したエノラ・ゲイには民間人科学者が搭乗していた。戦闘作戦に民間人が関与することは国際法違反になってしまうので、科学者たちは便宜上の軍籍を付与されて搭乗していた。マンハッタン計画の最終実験の効果は科学者がその目で確かめる必要があったからだろう。

何故2発だったのか？広島に落とされたウラン型の原爆、長崎に落とされたプルトニウム型の原爆、2つの違った核物質を使った原爆の威力、毒性などを見極める必要があったと思われる。

広島に落とされた原爆に使われたウラン235は自然界に存在するウランの0.72%しか存在しない。一方、長崎に落とされたプルトニウム239は自然界には殆ど存在せず、ウランを使った原爆などで作られる。長崎に落とされたプルトニウム型の原爆は広島型の1.5倍の威力がある。

プルトニウムはウランより毒性が強く、取り扱いが難しいが威力も大きく、原爆として使う場合、その毒性も強くなる。旧ソ連への原爆の威力を示す必要などもあり、アメリカは原爆を使用する必要性があった。

原爆投下が戦争終結を早める為に致し方なく行われた行為ではないことを知るべきだと思う。

たとえ、そうだったとしても、30万人以上の民間人の命が奪われ、80年の年月が過ぎても原爆症に苦しむ人がいる、その行為は許されざるものだ我々日本人が認識すべきだと思う。そして、2度とこの残虐な行為が繰り返されないために、被爆国である日本が核兵器禁止条約を押しすすめる国になっていかなければならないと思う。